

今週の聖句

あなたがたがわたしによって平和を得るためである

ヨハネによる福音書 16章 33節

ねらい

- ・ 全聖徒主日は召天者を覚える主日であり、その脈略でテキストが選ばれる。
先に天に召されたものを覚え、彼らの生涯に与えられた神の恵みと、彼らの生涯を通して私たちに与えられた神の恵みに感謝し、逝きし者を改めて神に委ねる心と共に、自分たちそれぞれの人生を省みて、終わりに備えるようにする。
- ・ 死が終わりではないという希望を与える。

説教作成のヒント

- ・ イエス様が私たちと同じ「時間」を生きる方であり、そしてそれ以上の方であることを伝える。
- ・ 時間に関する単語の数を子どもたちと数えてみるのもよいだろう。
- ・ 「平和」とは「平安」と同じ言葉である。過去のことや今のこと、未来のことに思い悩み、不安になる必要はないというメッセージが語られている。

豆知識

- ・ ヨハネによる福音書 14-16章はイエス様が十字架にかかるまえに弟子たちに語られた「告別説教」と言われる箇所である。「イエスの遺言」とも言える箇所で、イエスは弟子たちに「平和（平安）」を約束される。
- ・ 全聖徒主日は教会暦においてイースターに次いで古い祝日とされた主日である。

説教

用意するもの

一段目に「全聖徒主日」二段目に「すべてのイエス様を信じる人の日曜日」と書いた紙。はじめは一段目のみ子どもたちに見せる。

今日は全聖徒主日です、聖壇の布の色も先週と違うね。「全聖徒主日」は漢字で書くとうなります。それぞれの漢字の意味はわかりますか？

そう、今日は今生きているイエス様を信じる人、もう死んでしまったイエス様を信じる人、みんなのことを覚えて礼拝を守る日曜日なんです。

今日みんなで読んだヨハネによる福音書には「時間」をあらわす単語がたくさん出てきました。まず、イエス様は弟子たちに対し、その「時」になると、あなたがたはわたしによって願うことになる」とおっしゃいました。そして次に、「わたしは父のもとから出て、世に来たが、今、世を去って、父のもとに行く。」と語っています。また「今ははっきりとお話になり、すこしもたとえを用いられません」「あなたが何でもご存知で、だれもお尋ねする必要のないことが、今、分かりました。」と弟子たちはイエス様に何度も「今」と言っています。そして、「今ようやく、

信じるようになったのか」「わたしをひとりきりにする時が来る。いや、既に来ている。」と、今度はイエス様が弟子たちに何度も「今」と言っています。

時間というと、「過去」と「現在」と「未来」にわけられますね、(時計を見て)今は何時何分が現在、1時間前の何時何分は過去、1時間後の何時何分は未来になります。でも、どれも「時間」という言い方には変わりありません。

そして、私たちは「現在」という時間しか生きることができませんね、もうすでに死んでしまった人は「現在」や「未来」を生きることができませんし、将来生まれるかも知れないみなさんの子どもも「現在」を生きることができません。

でも、イエス様はどうでしょうか？イエス様はいつも私たちと共にいてくださいますし、みなさんのお父さんやお母さん、おじいちゃんやおばあちゃんとも共にいてくださいました。また、みなさんの子どもや孫たちとも一緒にいてくださいます。イエス様は「過去」も「現在」も「未来」も、すべての時間に生きる人々と共にいてくださり、私たちを励まし、そして平和を与えてくださるのです。

だから私たちは、全聖徒主日のこの日、今を生きる私たちだけではなく、これまでイエス様と共に生きてきた人たちや、これからイエス様と共に生きるだろう人々のことを思って神様に感謝して、礼拝を守るのです。

今も、昔も、これからも、私たちとも共にいてくださるイエス様と神さまに感謝しましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は "こどもさんびか" (日キ版) より

60番

改訂34番

話してみよう

- ・ 「過去」「現在」「未来」に区切った白紙に、自分を中心に該当する人(家族や親戚、友達など)の名前を書いてみよう(未来は想像で)。
- ・ イエス様は勝った「世」って何だろう?どんな「世」を想像する?



暗唱聖句

心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい	マタイによる福音書 22章 37節
--------------------------------------	-------------------

ねらい

- ・ キリスト者にとって本当に求めるべきもの、大切にすべきものが自分自身ではなく、神さまを愛し、隣人を愛することであることを覚えたい。
- ・ 律法を廃止するためではなく、律法を完成させるためにイエス様が来られたことを覚えたい。

説教作成のヒント

- ・ 律法の専門家たちは旧約聖書に書かれている六百以上にも及ぶモーセの掟を詳しく調べ、日常生活の中でこれをいかに守ればよいか、研究していました。
- ・ ヨハネの第一の手紙 4:20。「目に見える兄弟を愛さないものは、目に見えない神を愛することはできません」。神を愛することと人間を愛することはコインの表裏一体のように、決して切っても切れないことである。

豆知識

- ・ 二つの掟が出てくるが、それぞれ旧約聖書の言葉であり、違う箇所からの引用である。「あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」申命記 6:5
「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である」レビ記 19:18

説教

わたしたちはたくさんの掟、決まり事を知っています。たとえば、赤信号の時には止まって待ちましょう、渡ってはいけませんということを知っています。他にも流れが早かったり、深い川や湖、池には近づいてはいけませんというようなことも知っているでしょう。知っているということは大切なことです。けれども、知っているだけではダメなこともあります。赤信号の時には止まることを知っていても止まらないで進んだり、危険なところに入っていったのならば、車にはねられたり、命を落としてしまうこともあります。大切なことは知っているということとそれを守るということです。知って守ること。それが大切なことなのです。

わたしたちにもたくさんの掟があるように、イエス様の時代にもたくさんの掟がありました。約六百の掟があり、それを専門に勉強している人たちもたくさんいました。その掟のことを律法と言いましたが、律法は神さまが人間はその掟を守ることによって、より良く、優しい心をもって生きていけるようにとくださったものでした。一つ一つが大切なことでした。ですから、その中でどれが一番大切かなどの順番はつけられないものだったのです。ところが、研究をしたり、その掟が当たり前になってくると、掟を知っているだけ、破らないようにするだけで、なぜその掟、教えが与えられているかは考えなくなってきてしまいました。けれども、本当に大切なことはどうして神さまがこのような掟を与えたのだろうか、またこの掟を守るとどんな世界になるのかを考えて、知って守っていくことが大切だったのです。ある意味では神さまから宿題のように

考えることを求められていたのかもしれませんが。

今日、イエス様は律法の中で一番大事なものと聞かれて、二つ答えられました。一番大事と聞かれたのに二つ答えたのはずいようにも思いますが、両方とも大切ということがあるのです。例えば、コインの表と裏は切り離せないように、イヤリングなどは片方では役に立たないように、両方が大切なことがあります。神さまを愛することと隣人を愛することは両方大事だと言われます。イエス様の時代のずっとずっと昔から言われていたことです。あえてイエス様がこのように言われるのはこの時代、守られていなかったからでしょう。自分ばかりを大事にしてしまうから神さまを愛することと隣人、自分の周りの人を愛することができなかつたのです。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」ということはあなたのすべてを用いて神さまを愛しなさい、神さまを第一にしなさいということです。「隣人を自分のように愛しなさい」ということは自分の周りの人を大切にすることです。隣人を愛することは神さまを愛することでもあります。隣人愛を生まないような神への愛はありません。わたしたちが本当に神さまを愛そうとするならば、父なる神さまが心にかけておられるすべての人、つまり、わたしたちの隣人を自分のように愛することから出発します。神さまを愛すること、隣人を愛することは回り回ってわたし自身も愛されることになります。

神さまを愛すること、隣人を愛すること。その掟を知っているだけではなく、実践していくこと。それが大切です。自分一人では愛することができなければ、イエス様に助けられながら、神さまのあたえてくださった二つの掟を守っていきましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

36番

改訂120番

話してみよう

- ・「心」とつながることばを話してみよう。（例：熱い心
- ・「精神」につながることばはどうでしょう。（例：精神力，
- ・「思い」についても話してみよう。（例：思いやり，思いつく・・・

やってみよう

みことば手帳に聖句を書きとめましょう。今までのよりも、上手にきちんと並べて書きながら覚えましょう。

暗唱聖句

だから、目を覚ましていなさい

ルカによる福音書 1章 13節

ねらい

- ・ 教会のカレンダーも終わりにさしかかり、テーマは「終末」となる。
- ・ 終末をしっかりと伝えることも大切だが、ここでは「備え」をキーワードにして子どもたちに終末に向けて歩むキリスト者の生き方を伝えたい。

説教作成のヒント

- ・ マタイ 24-25章は「終末」について語られている。
- ・ ここでイエス様は、人を油を用意できた花嫁と用意できなかった花嫁との二種類にわけるところを目的としているのではない。

豆知識

- ・ イエス様の時代の婚宴は、多くの人に参加できるように夕方から始まり、婚宴の開始に先立ち、花嫁が友人たちと一緒に花嫁の家に彼女を迎えに行く。そこで花嫁は花嫁の親族と挨拶をし、花嫁と彼女の友人や親族を伴って花嫁の家に行き、そこで婚宴を開いたそうである。
- ・ ストラスブールの教会の扉には左右にそれぞれ賢い乙女と、愚かな乙女の彫刻がある。

説教

みなさんは「この世の終わり」について考えたことがありますか？それはいつくるでしょうか？それはどんなものでしょうか？

イエス様の時代の人たちも、自分たちが死んだあと、自分たちはどうになってしまうのか？また、自分たちの子どもたちは、この世界はどうになってしまうのか？色々と考えていました。

そんなとき、イエス様がお弟子さんたちにお話して下さったのが今日の聖書のお話です

イエス様の時代の結婚式のパーティーは色んな人に参加できるように夜始まりました。そしてパーティーのはじまりは、花嫁さんとその友達 10人が花嫁を迎えに行くことから始まりました。

そして、花嫁さんとその友達が花嫁さんの家に行ったときに事件が起こったのです。何と、花嫁さんはパーティーの準備をしていたのか、急な用事が入ってしまったのか、来るのが遅れてしまったのです。30分でしょうか、1時間でしょうか、花嫁さんたちは花嫁さんが来るのがあまりにも遅いので居眠りしてしまいました。そこへ「花嫁さんの準備ができましたよ！」という声に、花嫁さんたちはあわてて花嫁さんを迎えようとしたのですが、あんまり待つ時間が長かったので、夜の道を照らすためのともし火の油がすっかりなくなってしまいました。けれど、5人の人は自分の分の予備の油を持っていました。予備の油を持っていなかった人は急いでお店に油を買いに行ったのですが、花嫁さんはもう予備の油を持っていた5人と一緒に先に行ってしまいました。

5人は後を追いかけてますが間に合いません。やっとなのおもいでパーティー会場に着いたのです

が、家の主人から「わたしはお前たちを知らない」といって入れてもらえませんでした。とさ。
これがイエス様のお話です。何かめでたし、めでたしのお話ではありませんね。でも、イエス様はこれが天の国、この世の終わりだと、お話しなされたのです。

この世の終わりは、いつやってきて、どうなるのか？それは花婿さんを待つようなもので、花嫁さんであるあなたがたはわからないのだから、いつ花婿さんが来てもいいように、しっかり準備をしておきなさい。と、イエス様は「この世の終わり」についてではなく、「この世の終わり」をどのように迎えるか？についてお話しなされたのです。

では、いつ花婿が来てもいいように私たちが備える「油」とは何でしょうか？そうですね、聖書の言葉です。毎日しっかりと聖書を読んで、油を蓄えましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

51番

改訂127番

話してみよう

- ・ どんな行事でも、そのための準備と用意が必要ですね。ボーイやガールスカウトでは「常に備えよ」と教えます。
- ・ 花婿を迎える家では、明かりを灯してお迎えします。新約時代の明かりは、オイルランプでした。明かりの器ではなく、明かりを長く灯すためには、灯芯とオリーブ油を用意しなければなりません。
- ・ ・ 灯火は人の魂、生命のシンボル
- ・ ・ 灯火は神のことば
- ・ ではオリーブ油は何のシンボルでしょう。

やってみよう

旧約時代のオイルランプと新約時代のオイルランプがあります。かきくらべてみましょう。



暗唱聖句

正しい人たちは永遠の命にあずかるのである

マタイによる福音書 25章 46節

ねらい

- ・ 教会の大晦日ともいえる聖霊降臨後最終主日に私たちは「さばき」の言葉を聞く。しかし大切なのは、最後に王は「わたしに代わるこの小さい者はこれまでどこにいたのか」ということである。
- ・ このみ言葉はイエスに従った弟子達にむけて語られた言葉であるが、これまで彼らが間近でみたイエスの行動と、王の語る小さい者に良いことをした何者かの姿が重なったことであろう、イエスの歩を思い返し、思い浮かぶ「小さい者」とイエスさまとのやりとりに思いをはせたい。

説教作成のヒント

- ・ 「小さい者」とは、マタイによる福音書の中で特別な存在として描かれる。他の箇所における「小さい者」の取り扱いについて心に留めておくことも有益である。

豆知識

- ・ パレスチナでは羊と山羊を一緒に飼うことが普通。山羊は寒さに弱いので、夜には暖かいところに移すが、羊は開放されていることを好むため、それぞれわかる必要があった。
- ・ 羊と山羊では羊の方が高価であった。

説教

羊の写真と山羊の写真をそれぞれ用意しておく。

みなさんは動物園にいったことがありますか？

そう、ほとんどの人が行ったことがありますね、ではこの動物は何という動物ですか？おっ、さすがですね、そうです「羊」です。ではこの動物は何という動物ですか？そう、ぱっちり、そうです「山羊」です。

さて、この二匹の動物、大きさは同じくらいです。では、お乳を飲むのはどちらでしょう？そうですね、山羊です。では毛糸の材料になるのはどっちですか？そうですね、羊です。では目が悪いのは？では寒いのが苦手なのは？ではイエス様の時代、高価だったのは？

羊と山羊は似ているようで、実は結構違うところもあるんですね。

でも、今日の聖書を読んで、簡単に「羊」は良い動物で「山羊」は悪い動物だと思わないでください。羊と山羊は仲良しで、イエス様の時代には一緒に飼われていることが多かったようです。でも山羊は寒さに弱いので、夜になると羊飼いは、自分の群れの中から羊と山羊を「おまえはこっち」「おまえはこっち」とわけたそうです。イエス様は、そんな羊飼いと同じように「終わりの日にはみんなも右と左に分けられますよ」と言っておられるのです。しかし「人の子が天使達を従えてくるとき」はいつかわかりません。また、その時に備えて自分達の行いを正していくことも、何か計算高い気がします。もっとも、聖書に登場する「正しいひとたち」も「呪われ

た」彼らも、自分たちがいつ何をしたか覚えていませんでしたね。

みなさんも自分のことを考えてみてください。みなさんの学校でもテストがありますね、では1週間後に漢字のテストがあるとすれば、みなさんはいつ準備をはじめますか？今日から？3日前から？それとも1日前ですか？もし今日からはじめたら、一日5分で100点を取れますが、3日前からなら一日30分、1日間だけなら3時間勉強しないと100点を取ることができません。

ですから、ここでイエス様がおっしゃっていることは、自分が正しいと思うこと、神さまが正しいとおっしゃることは、明日からではなく、今日から、いつも覚えていて、そして行動に移すことが大切であるということです。

では、イエス様は何が大切だとおっしゃっていたのでしょうか？そうですね「飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねる」こと、そのことこそが神さまは正しいことだとおっしゃっているのです。どうかみなさん、みなさんのまわりに「飢えた人、のどが渇いている人、旅をしていて宿がない人、裸の人、病気の人、牢にいる人」がいるかどうか考えてみてください。そしてもししたら、そうです、みなさん、今あたまの中で思ったことを行動に移してみましよう。

分級への展開

さんびしよう

* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

35番

改訂124番

話してみよう

世の中の最も小さい者(人)とはどんな人達のことだろう。

- ・食べ物が乏しく飢えている人々
- ・のどが渇いて、水を求めている人々
- ・何かの事情で家をなくし、宿に泊まれない人々
- ・着たままで古くいたんだ服の人
- ・まちがって捕らわれ牢屋にとじこめられた人
- ・色々な災害にあった人々

やってみよう

みことば手帳には、今日は次のことばを書きましょう。

『わたしの兄弟であるこの最も小さい者にしたのは、わたしにしてくれたことになる。マタイ25:40』

(宿題) 来週のために、口バの絵や写真をさがして下さい。

暗唱聖句

前に行く者も後に従う者も叫んだ

マルコによる福音書 11章9節

ねらい

- ・ 待降節の意味を理解し、イエス様を迎える意味をしっかりと考える。
- ・ イエス様の生涯を考えたとき、待降節に何故この箇所を読むのかを考える。

説教作成のヒント

- ・ 待降節第一主日の日課は枝の主日の日課と同じ箇所が読まれる。それはイエス様は何のために私たちの世にお生まれになったかを、私たちが忘れないようにするためである。
- ・ 詩篇 118:26 の「主の名によって来られる方に祝福があるように」は、詩編では巡礼の人々をエルサレムの城内から歓迎する人々が、巡礼者たちの歌に応答する声である。つまりこの言葉は、主を信じて神殿にやって来た人々への祝福にほかならない。しかし、福音書では逆に人の世界に神から来るお方を迎え、歓迎する言葉となっているといつてよい。

豆知識

- ・ ろば...エルサレム周辺の村には人を運んだり、荷物を運んだりするために、人々が共同で「馬」や「やぎ」を飼っていた。
- ・ 「ホサナ」...「今救いたまえ」の意。エルサレムでは万歳という歓呼と同じように用いられた。

説教

みなさんはパレードをみたことがありますか？先生も優勝したプロ野球のチームやお相撲さんがオープンカーに乗って街をねりあるく姿をたまにテレビで見ることがあります。車に乗っている人も、それを道路から眺めている人も、みんなとっても楽しそうでした。

今日読んだ聖書には、イエス様がパレードをしたお話が書いてありました。イエス様はイスラエルの国のあちこちで、またガリラヤの色々なところで、神さまのお話をしたり、病気の人をなおしたり、きっとイエス様の評判はエルサレムに住む人たちにも届いていたと思います。また、イスラエルの国のあちこちから、ガリラヤのあちこちから、イエス様の後をついてきた人もいたでしょう。そんな人たちが「いよいよ神殿のあるエルサレムに入城される、きっともつとすばらしい出来事が起きるに違いない」と思い、喜んでイエス様を迎えたのです。

でも、ちょっと待ってください。今日は待降節の第1主日の礼拝ですよね、イエス様がお生まれになることを覚える日曜日ですよね、パレードって言えば、試合に勝ったとか、すごいことをしたとか、やったことに対するお祝いをするのがパレードなのに、何で何もしていない、まだ生まれてもないイエス様を迎える準備をする日曜日に、イエス様のパレードの物語を読むのでしょうか？

それは、私たちがイエス様の誕生を祝うクリスマスを迎える準備をするときに、忘れてはいけない大切なことを私たちに伝えるためです。エルサレムに入城したあと、イエス様はどこで何を

して、そして最後はどうなったでしょうか、そうです、イエス様はエルサレムに入ったあと、つかまり、十字架につけられて殺されたのです。イエス様はみんなのために十字架にかかってくださったのです。つまり今日は、クリスマスにお生まれになる方は十字架にかけられる方であるということを知る日曜日なのです。

私たちのために十字架にかけられるイエス様をお迎えする、私たちがその誕生を待つお方は、すごい人なんだ！とっても大切な方なんだ！私たちが大切に思って、いつも私たちと共にいてくださる方なんだ！私たちのために十字架にかかってくださった方なんだ！クリスマスに向けて、そのことをしっかりと覚えながら、待降節の毎日を過ごしましょう。

分級への展開

さんびしよう

* 讃美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

3 2 番

改訂 8 2 番

話してみよう

王様や大統領が大きな城に入城する時は、どんな乗り物を使うのでしょうか。

- ・立派な馬がたくさん並んでひく豪華な馬車行列
- ・馬の中の一番立派な白馬にのる

しかし、イエスさまの場合はロバでしたね。馬とロバをくらべてみましょう。

ロバは村や町の人々の家で飼っていました。餌は野の草で充分でしたし、荷物や人を運んだり色々な仕事に働きました。ロバは静かで従順でした。決して馬のように立派には見えません。しかも今まで誰も乗せたことのない小さなロバ(ちいろば)にイエスさまは乗りました。

イエスさまがお生まれになった時、馬小屋の中ででしたし、飼葉桶にねかされました。この時もロバだったのでしょね。

やってみよう

ロバの絵を描いてみよう。